

# Desert Wind (No. 15)

Las Vegas Japanese Community Church

FEBRUARY 2007

『わたしは荒野に道を設け、さばくに川を流れさせる』(イザヤ 43:19)

編集：平山未樹

『御心のある所に道がある』

LVJCC 牧師：鶴田健次

ある人が私に、こんな質問をなさいました。「人には解決する道がないことでも、神様には解決する方法があるのでしょうか？」私は、「もちろんです」と答えました。問題に対する人間の解決策は幾つしかありませんが、神様は無限の解決策を持っていらっしゃいます。神様は、御心を行なうためには、どんな奇跡をも起こすことができになります。ですから、神様の御心を信じて祈り求めるなら、必ず、不可能と書いていた所に解決の糸口が見えてくるのです。それでは、道が開けるための鍵は何でしょう。

まず第一の鍵は、神様は必ず御心をなされる方であることを知ることです。歴代志下16章9節に、『主の目はあまねく全地を行きめぐり、自分に向かって心を全うする者のために力をあらわされる』という言葉があります。神様の全能の力は、たとえどんな状況下でも、神様の心と自分の心を同じくする者の上に現わされるのです。モーセという人は、力強い信仰の持ち主でした。モーセはなぜそんな信仰を持つことが出来たのでしょうか。それは、モーセがイスラエルの民をエジプトから導き出し、約束の地カナンに導くことが神様の御心であるということを知っていたからです。神様は、モーセに、『さあ、わたしは、あなたをパロにつかわして、わたしの民、イスラエルの民をエジプトから導き出させよ』

』とおっしゃいました。御心がある所には必ず道があることをモーセは知っていました。ですから、紅海とエジプトの兵隊に挟まれ、すべてのイスラエルの民が絶望の中で泣きわめいても、モーセは彼らに、「生きる道がある」ことを信じ、その八方塞の状況の中で、『あなたがたは恐れてはならない。かたく立って、主がきょう、あなたがたのためになされる救いを見なさい』と言うことができたのです。

第二の鍵は、神様の御心が何であるかを知ることです。私たちの人生には試練がつきものです。誰でも、生きていく限り、自分の手に負えない行き詰まりを経験します。しかし、そんな状況の中で神様の御心が解かれれば、たとえ周りのすべての可能性が閉ざされていても、天の窓が開かれ思いもしなかった道が見えてくるのです。聖書に、『目がまだ見えず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮かびもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた』とある通りです。神様の道は、確かに人の理解を越えた大いなる道です。しかし、神様の御心を知りさえすれば、その道が必ず開かれるのです。

神様が祈りを聞いて下さったことを5万回も経験したジョージ・ミュラーは、30歳の時に孤児院を始めてから93歳で天に召されるまでの63年間、ただ祈りによって孤児院を運営しました。その間、彼は一度も人に助けを求めることなく、ただ神様の前にひざまずき、3000人の

孤児たちを養うために、今のお金に換算すると約50億円という多額の運営費が備えられました。彼は、祈る前に必ず、神様に捧げる祈りの内容が聖書のどこに約束されているかを捜し出し、それから祈り求めたそうです。漠然とした祈りを捧げたのではなく、神様の御心であることを聖書によって確認したうえで、神様の御心に拠り頼んで祈ったのです。

第三の鍵は、信仰による行い입니다。私たちが聖書の御言葉によって神様の御心を知ったなら、祈りつつ信仰をもってそれを行わなければなりません。神様の御心を知ったなら、たとえ何の徴が見えなくても、信仰によって行動するのです。そうすれば、神様が道を開いて下さいます。私たちが自分で道を開くのではないのです。私たちに必要なことは、信仰の一步を踏み出すことです。すると、必ず道が開かれるのです。ですから、「私はできません」、「私は駄目です」、「私には能力がありません」と言う言葉を口に出してはいけません。理性や感覚的な判断によって迷わずに、神様を信じ、神様に拠り頼み、その御声に従順に従うなら、神様の奇跡があなたの後を追いかけてくることでしょう。

証し

Norman 美佐子

「求めよ、そうすれば与えられるであろう。捜せ、そうすれば見出すであろう。」

私は、この御言葉を聞くたびに、十数年前に突然、家族を置いて蒸発してしまった、日本にいる弟の事を思い出すのが常でした。

蒸発以来、どこにいるかも分からない弟寿一の居場所を知っているのは神様だけです。そこで、一年ほど前から、早天祈禱会でも、皆さんが弟の居場所が分かるようにと祈って下さるようになりました。時どき私がその祈りを忘れていた時にも、潤子姉妹はいつも寿一のことを覚えて祈って下さいました。

早天祈禱会で毎回祈るようになって数ヶ月が過ぎた頃、日本にいる寿一の娘、美穂から電話があり、知らない人が、頼んでもいないのに、「あなたのお父さんはここに居ます」と言って寿一の居場所を美穂の家に教えに来てくれたのです。こんな事は神様にしか出来ない事です。さっそく、美穂はその住所に父親の寿一を訪ねてくれ、私はその事がとても感謝でした。

というのも、弟の寿一は多額の借金を残して蒸発し、娘の美穂と妻の美恵子さんは、その責任を取られ、10年以上の間、毎月その返済をし続けてきたので、彼女たちには絶対に寿一を赦せないという気持ちがあったからです。

去年3月、主人と私は久しぶりに日本に行き、そのとき私は美穂たちに、私はクリスチャンになったおかげで人を赦せるようになったという証をしました。彼女たち家族は、寿一のせいで大変な苦勞をし、寿一を赦せない気持ちはもっともだけれど、人を赦せないと、赦せない自分が苦しいので、早く心の重荷を下ろして欲しいと頼みました。そのためには、イエス様を信じて、自分の罪を赦して頂いたら、必ず人を赦す心が与えられ、心が平安と喜びに満たされるからと証をしました。

美穂からの電話は、そんな矢先のことだったので、私は電話のあと、「祈りが聞かれた！主は本当に生きておられる！」と主を褒め称えずにはいらませんでした。

美穂の報告によると、寿一の耳は遠く、目も良く見えない状態で、そのうえ喉頭癌にかかっているということでした。そこで、私たちは寿一が癒されるように祈り始めるとともに、何とかして救いの福音を伝えなければと、私は福音のメッセージを手紙に書き、それを美穂に送って、寿一の所に届けてもらいました。

ところが驚いたことに、神様は既に日本にいるクリスチャンを用いて寿一を導いておられたのです。寿一は私の手紙を読んで、お姉さんが信じているイエス様を自分も信じていると言って泣いて喜んだそうです。私は、改めて祈りの偉大な力を知らされた思いでした。

それからというもの、神様の働きによって何もかもがスムーズに行きました。まず鶴田牧師が日本にいる中村先生に連絡を取って下さり、寿一の為に必要な手助けをしていただけになりました。介護保険、介護施設への入居、生活保護など、これらの時間のかかる手続きがすべてトントン拍子に進み、神様を知らない美穂が、伯母さんが信じている神様が助けてくれていることがよく分かると思ったほどでした。

しばらくして、病院の診断の結果、喉頭癌はなし、胃も異常なし、耳が遠いのは年齢のせい、左脚と右手が不自由なのは脳に小さな脳梗塞があるから、それに軽い痴呆症があるということが分かりました。

おかげで寿一は、2007年8月31日に、まず介護施設の仮宿泊所に入居できるようになり、長い間ホームレス同然の生活をしてきた彼は、クリスマスは暖かい部屋で安心して住めるといながら、喜びのあまり、声を上げて泣いたそうです。これは、すべて祈りを聞いて下さった神様の御業です。すべての栄光を神様にお返しします！

## 案内・ニュース

- ・ 2008 年度の御言葉として主から与えられた御言葉はヨハネ 13:34 です。この御言葉をもとに『互いに愛し合う教会』という教会標語が与えられました。
- ・ 鶴田潤子姉が危篤状態にあるお父様のお見舞いのために訪日中です。またお母様も完全看護が必要な状態でおられますので、ご両親のために、また潤子姉が支えられますようにお祈り下さい。
- ・ 2月6日(水)は、恒例のお好み焼き会がごございます。前回も多くの新しい方々がいらっしやいました。ぜひお友達をお誘いの上、お出かけ下さい。
- ・ 2月9日はサンデースクールの主催でMandalay BayのShark Reef水族館を見学に行きます。参加ご希望の方はどなたでも。
- ・ 2月12日(火)に大和カルバリーチャペルの大川従道先生をお迎えし特別集會を持ちます。

## DREAMS COME TRUE

- ☞ 教会堂の建設
- ☞ 敬老ホームの設立
- ☞ 幼稚園の設立

編集部から一言

平山未樹

ニュースレターでは 1400 字程度のお証、また質問を募集しています。  
lvjccnews@hotmail.com まで、意見質問等何でもどうぞ。